最優秀賞
支部組合

島原半島遊技場組合
（長崎県遊技業協同組合）
「安全・安心まちづくり」事業

島原半島遊技場組合
組合長
藤山剛士さん

選考理由

コロナ禍のなかで、今この街に必要なもの、それは「医療と治安の安定」であるとの観点から、島原医師会へ防護服150着、治安安定の一助として島原警察署にマスク320枚を寄付すると共に、特殊詐欺への注意喚起のための防犯カレンダー2,000部を寄贈。加えて注意喚起のピクトグラム（情報や注意を促す視覚記号、絵文字。例として“非常口マーク”“禁煙マーク”などがある）を、高校生から募集するなど、青少年を巻き込んだパブリシティ効果の高い事業もあり、地域貢献活動として、高く評価出来る。

社会貢献活動審査委員会
委員
松尾守人氏

「今、何が必要なのか」の要望に応え、地域にとって本当に必要な社会貢献を実施

島原半島が安全・安心な場所になるように自治体や警察と連携

有明海に突き出た長崎県の島原半島といえば、雲仙温泉郷や島原半島ジオパーク、島原の乱の遺跡などを抱えた風光明媚な名所である。この半島には、島原市、南島原市、雲仙市の3つの自治体があり、そこで営業する11ホールで構成されているのが、島原半島遊技場組合である。同組合では、安全・安心なまちづくりに協力するため、地元自治体や防犯協会などに対する寄付・寄贈やイベントへの参加を積極的、継続的に行っている。

同組合では、2017年度にもPOSCの前身である全日本社会貢献団体機構（AJOSC）の顕彰事業において優秀賞を受賞しているが、社会貢献活動の理念としているのは、「今、何が必要なのか」という地域のニーズを敏感に汲み上げ、それに対応した活動を実施することである。社会貢献活動においては、ややもすれば「する側」の論理が優先されることで、それが現状に見合っていなかったり、過剰や空回りしたりする事態がないわけではない。それではせっかくの活動も台無しになりかねない。そうならないようにするためにも、日頃から「される側」の地元自治体や防犯機関などと密接な連携を取りながら、その要望や要求に真摯に耳を傾ける必要がある。

地域密着度が高い支部組合が行う社会貢献活動にとっては、そうした態度や考え方が特に重要といえるが、安全・安心なまちづくりに協力するという太い柱のもと、それを長期にわたって実践しているのが同組合である。

島原市医師会に防護服や島原警察署にマスクを寄贈

特殊詐欺への注意を喚起する島原警察署のオリジナルカレンダーを寄贈

地元医師会への防護服の寄贈と特殊詐欺被害防止のカレンダー作製

同組合では昨夏のコロナ禍において、「今、何が必要か」の観点のもと、島原市や島原警察署などと協議し、「医療や治安の安定が安全・安心なまちづくりにつながる」という考えから、島原市役所を通じて感染予防に必要な防護服150着を島原市医師会に寄贈したほか、治安安定の一助として、同じく島原市役所を通じて島原警察署に抗菌布マスク320枚を寄贈した。

さらに2020年1月には、長崎県でも新型コロナ特別警戒警報が発令されるなか、再度、防護服800着を島原市に寄贈した。その折に島原市役所で開催された贈呈式において、「医療機関が毎日、頑張っておられる。市医師会に防護服を届けることで感謝の気持ちを伝え、さらに感染予防に努めていきたい」と、市長から同組合の藤山剛士組合長に対して感謝の言葉をいただいた。贈呈式の模様は地元のケーブルテレビで放映されたほか、地元紙の『島原新聞』に掲載された。

また、同組合では、依然として後を絶たない特殊詐欺被害に歯止めをかけようと、詐欺への注意を喚起する島原警察署のオリジナルカレンダー（2021年版）2,000枚を作製し、寄贈した。このカレンダーは12ヵ月分を1枚紙にまとめたもので、詐欺の手口が一目でわかるようなピクトグラム（絵文字）が14作品並んでいる。このピクトグラムは、島原市内にある県立高校5校の生徒から募集したものである。カレンダーは高齢者対策に取り組む市内の事業者を始め、老人会、独居高齢者などに配布された。こうした活動に対し、島原警察署長から「警察業務支援功労」の感謝状が同組合に届けられた。